

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 11月 27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473500688		
法人名	有限会社トリオ		
事業所名	グループホームきららの里		
所在地	〒731-1526 広島県山県郡北広島町本地1931 (電話) 0826-72-7324		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473500688-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「心と身体のバランスを大切に思いやりの心とチームケアで笑顔あふれるグループホームを目指します。」グループホームの年間目標を話し合いを重ねて設定し、目標達成のため日々努力しています。身体を大切にするために、排便、水分、食事に注意し、小さな変化も見逃さないよう体調管理に気を付けています。きららの里は楽しい、ずっとここで生活したいとの声を大切に、笑顔がいっぱいのきららの里を目指しています。ご家族様と連絡を取り、お一人おひとりの思いを大切にしています。職員のチームワークは最高で、常に報告、連絡、相談ができています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>創設者（代表）は「一人ひとりを十分に支援」しながら人の尊厳を支え「皆が朗かで穏やかな心になる生活作り」を大切にしており、その理念は職員間の良好なコミュニケーションによるチームケアにも繋がっている。「利用者が笑顔になって貰えるケア」に関して、職員は度々話し合いを重ね、提案やアイデアを実現させている。例として、コロナ禍のためウッドデッキでの花見開催、室内歩行距離をその都度合計し励みとする取り組み、利用者から恒例となった毎日午後からの20分間の読経の支援、僅かな体調や心の変化にも気づき易い記録用紙の発案などがある。事業所は、地区防災連携協議会の取り組みや認知症についての相談を受ける事もあるなど、行事を含めて多数の地域交流が継続されており、併設のデイサービスと共に地域に根付いた事業所となっている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所の理念を基に、毎年職員間で深く掘り下げ話し合い、理念に副った目標を設定し、達成できるよう月2回のミーティングで確認し、共有し努力しています。	代表者が掲げる明確な理念「経営方針・社員の心得・介護重点目標」を基に、職員は毎年、話し合っ具体的「年度目標」を策定している。月2回のミーティングや申し送りでは、利用者の個別性と心と身体のバランスに配慮しながら具体的に「笑顔あふれるチームケア」の検討を行い、朗らかで穏やかな生活作りに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年ではコロナウイルス感染症対策で、外部との交流を制限しています。以前は保育所の発表会など地域の行事に参加し、施設のイベントには小学生や保育園児、地域のコーラスボランティアに来ていただき交流を図っています。また、周辺の草刈や町内美化運動にも参加しています。地域の皆さんから季節の野菜を頂いています。	代表は地域の役員などを引き受けており地域との繋がりを大切にしている。近隣の人の訪問や行事参加など相互交流を継続している。散歩中には畑仕事の方と挨拶し、畑作りのアドバイスがあったり、採れた野菜の双方のおすそ分けを楽しむ等、感染予防をしながら自然な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町の高齢福祉課や地域包括支援センターと密に連絡を取り、事業者や利用者の相談事案や情報交換を行っています。行政からの依頼により認知症サポーター講座の講師を行ったり、中学校の職場体験の受け入れを行い、町と協力関係を築いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の高齢者をお世話される役員の方々と委員を構成し、事業所の状況、利用者の状況などを報告します。また推進委員の方たちが参考となるテーマを選んで講師を招き勉強会・情報交換をします。提案、意見などを頂き業務に活かしています。4月からコロナのため書面会議とさせて頂いています。	参加者は、毎回、家族代表、自治会長や老人クラブの役員、複数の民生委員、地域包括支援センターの出席があり、事業所の状況報告や情報交換を行っている。最近では書面会議となり、身体拘束などに関する質問や意見の記載をお願いしている。事業所からは、それらのケア内容や更なる工夫点を伝えている。AED設置の周知を図った例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進委員に地域の民生委員、老人クラブ、地区役員などをメンバーとし、認知症支援に関する資料の配布、地域包括支援センター、認知症疾患医療センターの職員を招き勉強会を行っています。	平素から高齢福祉課や地域包括支援センターと密に連絡を取っており、認知症ケアに繋げている。地域での虐待防止ネットワーク会議の一員として行政と共に地域課題に取り組み、認知症アドバイザーとしての依頼もある。また、中学校の職場体験の受け入れも行うなど市町との協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	居室や玄関には施錠せず、自由に入り出ることができるように対応しています。介護保険法の改正に伴い、身体拘束マニュアルの見直しを行い、3ヶ月毎に委員会でチェックを行い、「身体拘束をしないケア」を実施しています。	夜間のみ玄関を施錠している。利用者の思いや背景を職員間で何度も話し合い、抑制をしないケアを工夫している。虐待の芽チェックリスト表を用いて日頃のケアの振り返りや研修を継続しており「身体拘束ゼロ」に関して強く意識しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ご利用者の尊厳と主体性を尊重することを介護の重点目標に掲げ、職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、研修会、勉強会を開き、3ヶ月毎に委員会でチェックを行い、意識をもって虐待しないケアの実施に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会、講習会に参加し、そこで得た情報を職員が共有するために勉強会を開き、必要時に応じて話し合いの場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居に際しては、利用者、家族と面談し、ホームを見学して頂き、契約内容、重要事項説明書等を理解納得していただき同意を得ています。退去時は行き先に応じて情報を取得し説明して不安の解消に努めています。利用契約改定等の必要が生じた場合は十分説明し納得いただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には施設の行事に参加をしていただき意見交換を行い、また、面会時にご利用者の状況報告を行い、意見や協議を行い運営に反映しています。「きららだより」を毎月発行しています。個々の生活の様子を写真と手紙により近況をお知らせしています。	コロナ禍の為、以前のように家族から直接、意見や要望を聴く事は難しいが、毎月の「きららだより」の写真と手紙で利用者の近況を知らせ、小まめに電話するなど意見や要望を表し易くしている。郵送した「虐待の芽チェックリスト結果」に対して、家族ならではの意見や感想があり、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>2週間ごとにミーティングを行い、管理者も参加し職員の意見や提案を話し合い問題解決に努めています。管理者、職員が一体となって運営しています。</p>	<p>職員による日々の気付きや申し送りノートの内容を実現させるために、管理者は皆で知恵を出し合ったり工夫に取り組めるようサポートしている。コロナ禍の中「例年のように花見を楽しんで貰おう」と職員から提案があり、ベランダに本物の桜を持ち込み、紅白垂れ幕や提灯などを飾り、喜んで貰えた等の例がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員との意思疎通に努めて、働きやすい職場作り、やりがいのある職場作りに努めています。管理者は職員の休日などを聞き要望に副った勤務体制を作成しています。施設の維持管理、修繕などは代表者が行っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設長、管理者が研修の内容を吟味し、各職員が研修に参加できるよう計画しています。研修に参加した職員は報告会を行い職員と共有しています。また、施設内の勉強会を毎月1回実施しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域同業者と交流を深めるため、地域ケア会議、多職種連携研修会に出席し各事業所との意見交換をしています。また、虐待防止地域ネットワーク代表者会議にも参加しています。研修会、講習会の報告をし勉強会を行っています。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>個々の利用者の観察の中で本人が困っていることや不安に思っておられる内容をよく聴き、今必要な支援は何かを見極め、確認しながら対応しています。必要な時は家族さんと相談しながら解決しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っていること、不安に思っておられる内容をよく聴き、これまでのご苦勞を受け止め、今後の対応について家族とのコミュニケーションを取っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用を開始するに当たり、ご本人の生活自立支援及び要介護状況、疾病の有無、希望。ご家族からの相談内容を見極め、併設しているデイサービス及び近隣の医療機関を含めた」提案をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	工作や手芸など自分で出来ることをしていただき、出来ない部分は職員が陰ながら支え、また職員も教えていただきながら、利用者に達成感を味わってもらい、共に喜べる環境づくりをしています。また、食材加工、おやつ作りなど職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用の様子をこまめに報告し、電話で相談したりして共に支えあう雰囲気を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の思い出を大切にするため、馴染みの場所にドライブに行ったり、スーパーに買い物に行き、友人や地域の方と交流が取れるよう支援しています。コロナの影響で外出、面会、交流が難しくなっています。	現在は、地元の友人や家族などの馴染みの人に会う事も制限されているが、電話で声を聞いて貰えるよう職員が仲介して関係性が継続されるよう支援している。ドライブでは、土師ダム・どんぐり村など馴染みの場所を選び、思い出話を引き出したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知の程度の個人差はありますが、自然とお互いが助け合ったり、思いやりやったりする場面が見られます。プライベートは除き、助け合いが行えるよう職員間で調整し、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設へ移転された方には訪問してお話したり、家族さんには様子を聞いたりしています。新型コロナウイルス発生以後は難しくなっています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中でご本人の思いや興味を持つている事柄を引き出し、行動に合わせ話題や作業の提供をしています。本人の希望を聞きながら対応しています。	家族にも見て貰える個別のファイル（塗り絵などの作品、名前の自筆、話された事、要望、その時の様子等を記載）を作成し、家族からは「日常生活がしっかり見える」と好評で、本人の思いを家族とも共有している。また利用者から昔の事を職員にそつと話される時もあり、職員は一人ひとりの思いを大切にしながら関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人の生活歴、生活環境の把握に努め、日々の記録や行動から生活リズムを崩さないようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々一人ひとりの係わりのなかで、心身状態、今何をしたいか、何ができるか、何を希望しているかを、声かけしながら見極め、ご本人の意思の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>2週間ごとにミーティングを行い、利用者一人ひとりのケアのありかたについて検討、見直しを行い、必要あるときは家族や関係者と相談し介護計画を作成しています。</p>	<p>医療情報や訪問看護師からの意見を含め、家族・管理者・計画作成者などで協議を行い介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、現状に即した個別の計画となっている。具体的なケアの在り方や工夫内容を職員間で度々話し合い「笑顔」になる関わりを大切にしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子観察に力を入れ、個別記録や気づきノート、送りノートに記入し活用して、全職員に周知し話し合い、ケアに活かして介護計画に取り入れています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人の希望にできるだけ副うように、家族と相談しながら柔軟な支援に心がけています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺の田植えや稲刈りの見学、野菜作りと収穫、ぶどうや柿、栗の秋の味覚、ベランダで池の鯉を見ながらのお茶会、本人の希望や意向を、必要に応じて相談しながら支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居されるまでのかかりつけ医との関係を大切に、できるだけご家族との受診を行い、利用者の状態把握をしてもらっています。必要な方には往診をしていただくことも可能です。</p>	<p>本人・家族の意向により、以前からのかかりつけ医を継続されており、通常、家族が通院同行している。受診の際、職員は家族に利用者の体調を直接伝え、医師宛の手紙を持参して貰い、医師からの手紙や入電にて医療情報を得ている。それらを訪問看護師と情報共有し適切な医療と介護を受けられるようチームで取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日バイタルチェック 健康観察を行い、体調の変化に注意し、異常の早期発見に努め、訪問看護師 協力医療機関とも 報告、連絡、相談をしながら支援しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には細かい情報を提供し、ご家族と相談の上、早期退院ができるよう医療機関と情報交換しながら対応をしています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ホームでできること、できないことをご家族の理解を得、ご家族の意向を聞きながら、主治医の指導を受け、職員間で共有しチームケアを行っています。</p>	<p>事業所は重度化・終末期の対応や看取りの体制はとっておらず、医療などに繋げる方針である事を、入居前に説明し了承を頂いている。職員は平素から利用者の僅かな変化に気づき、早い段階で適切に医療機関に繋げる事もあり、入居者少人数の事業所の特性を活かした支援がなされている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDを備え、全ての職員で応急手当の訓練を行っています。消防署の指導による応急手当の訓練も定期的に行っています。職員への緊急連絡網も備えています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難誘導や避難方法など訓練を行い職員全員が周知しています。また、地域には緊急連絡網ができており協力体制もできております。また、スプリンクラーや自動火災通報装置も備えています。</p>	<p>消防署の指導を受けながら、年2回の避難訓練を行っている。事業所は、地域防災連絡協議会に住民と共に加入し災害時応援協定も結んでいる。葡萄園を散歩した時「ここに逃げるんよ」と利用者への意識付けにも取り組んでいる。建設時、土地の底上げを施工しており、事業所は水害対策も講じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の気持ちに寄り添い、利用者に対する言葉使い、介助については職員間で注意しながら日々気をつけるよう努めています。プライバシーに配慮し粘り強く話をし、納得してもらえるよう努めています。	内外の研修に参加しながら、職員同士は互いの気付きを言い合えるなど意識を高く持っている。共に過ごす生活の中で職員は語調や表現に配慮し、介助時の声かけ、食事の盛り付けなど「人の尊厳を支えるケア」に取り組んでいる。申し送り時は、呼名や内容などプライバシー面にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者とのふれあいの時間をできるだけたくさん持ち、希望や行動を把握した上で、本人の思いを尊重し、納得し安心して暮らせるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自室やホールは自由に入出入りして頂き、昼寝、読書、TVを観るなど、自分のペースで過ごしていただきます。一人ひとりの安全で安心のある生活ができるよう、目配り気配りをしながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望によりホームでの出張散髪も行っています。本人の希望、好みを大切に身だしなみやおしゃれを自由に行うよう支援しています。行事の時、特別な時は一層気配りをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備、配膳、片付けなど一人ひとりの力を活かせることを常に考えながら、職員と一緒にしています。また、弁当、おやつを持参し外出先で食べたり、お店に出かけたり、日頃と違った環境で食事をし楽しんで頂いています。コロナ発生以降はできていません。	「色合いと盛り付け」を大切に手作りの食事が提供されている。畑で採れた野菜も用いて、職員と共に下準備など一人ひとりが可能な範囲で参加している。また、稲荷ずし・押し寿司など利用者は慣れた手つきで楽しむ事もある。昼食後の手作りデザートは毎回、寒天ゼリーを使い、健康面にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスの低下が見られる方は係りつけの医師や訪問看護師に相談し、栄養補助食品を摂取していただく等の対応をしています。1日の食事量、水分量を記録し、栄養が確保できるよう支援しています。食事内容も体調に応じてメニューの変更、刻み食、ミキサー食の支援をしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔機能向上推進事業の指定を受け、ご利用者と職員が口腔ケアと口腔体操の指導を受け、毎食後声かけをして職員と一緒に清潔保持に努め、必要な時は歯科受診を勧めます。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者の状態に応じてトイレへの声かけを行い、排泄の失敗をなくし、自立に向けた支援を行っています。排尿の見られない方には、定期的にトイレにて排泄を促すように声かけをしています。</p>	<p>一人ひとりの生活記録表に排泄状況を細かく記載し、次のケアに繋がり易くしている。また職員間で話し合いを重ね、リハビリパンツから布パンツとパットだけになる等のケースもある。排泄後は温タオルを用い爽快感と清潔にも配慮している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとり細かな排泄の記録を取り、それに応じて水分摂取の確保や介護体操、牛乳、果物、ヨーグルトなどで自然排便に心がけています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>希望された時、その時の状況を確認し入浴して頂いています。入浴が難しい時にはシャワー浴、足浴、手浴して清潔の保持に努めています。</p>	<p>曜日に関係なく、入浴は3日毎となっている。希望されない時は無理強いをせず足浴にしたり声かけを工夫している。無添加のシャンプーを準備し、時には柚子湯や菖蒲湯とし、またバスクリンを用いて香りを楽しむ等の支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>自室で休まれる方、職員が見え るところで休みたい方など安心 して過ごすよう支援しています。 自室の方には定期巡室して、日 々の天候や希望に合わせて室温 、照明を調節しています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬についての勉強会を行い、目 的や作用をしっかり把握してお き、職員への周知を徹底してい ます。使用方法や副作用など医 師の指示のもと十分理解して 対応をしています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>1人ひとりに合った、ゲーム、 リクレーションなど楽しいと思 える時間が増えて笑顔でいられ る時間を少しでも多く提供でき るよう支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>希望を聞いて、花見ドライブ、紅 葉ドライブなど季節に応じて外 出、施設周辺の散歩等も行っ ています。一人ひとりその日の 体調を見て声をかけ、屋外に出 ていただけるよう心がけていま す。コロナ派生以後はできてい ません。</p>	<p>近くの寺院に寄って「歌の会」 に参加など希望にそった散歩 や季節ごとに車での外出を楽し まれていたが、現在はコロナ禍 の為、自粛している。事業所の ウッドデッキから池の鯉の餌や りや、庭園を眺めながらのお喋 りなど、季節に合わせた外気浴 が楽しめるよう支援がなされて いる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>金銭の管理は職員が行っており 、必要なものは職員が購入し ています。体調が良ければ職員 が同行し確認の上、購入する 時もあります。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	我が家への不安、家族への寂しさなど想いをくみとり、手紙を書いていたいたり、電話で家族の声を聞いて安心して頂けるよう支援しています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の馴染みの木造住宅で、畳の間に床の間があり落ち着いた造りになっています。壁面やホールに行事や日常の生活ぶりの写真を貼り、季節ごとに入居者と共に作成した飾りをしています。	共有空間は天井の梁を見せて開放感があり、廊下天井のさりげない飾り細工や滝のある庭園など、木造住宅ならではの温かみのある雰囲気となっている。BGMは歩行練習や塗り絵などのシーンに合わせて選んでおり、空調調整や窓開放、居場所など一人ひとりが心地よく過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル椅子、畳の間、ソファなど思い思いの場所でくつろげる場を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者と家族が相談されて、使い慣れたものを配置されています。家族さんの写真を貼り、自分で作られた作品を飾り、思い思いに工夫されています。	使い慣れた布団やタンス、テレビなどを引き続き使用しながら、家族写真、塗り絵などの作品、落ち葉など思い思いに飾っている。備え付けのベット向きも自由であるが、エアコンの場所により助言をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は全てバリアフリーで廊下、トイレ居室には手すりを設け、安全で自立した生活が送れるよう工夫しています。必要な方にはベッドに畳を敷いています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームきららの里

作成日 R2, 12, 22

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者一人ひとりの介護計画について職員が日々すぐに確認しながら支援することが出来る計画書があった方がよい。	一人ひとりに合ったケアプランを全職員が共有し、反省課題の話し合いを繰り返すことで活かしたプランにする。	個々のファイルに記載されたケアプランを一枚にまとめ、すぐに確認できるよう、業務日誌と共に置きミーティングで反省課題を話し合い、常にプランを前向きに活かす。	6ヶ月 (短期3ヶ月)
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。